



焼場の前に立つ少年

未来に残す・戦争の記録

失わずに済んだはずの

命の重さを知る！

「ニュース9月号では「1940年(昭和15年)9月30日付施行された(総力戦研究所)を取り上げ、その研究会の解散にあたって、総理大臣東条英機の言葉を紹介した。そして日米戦争に突入をした。その結果、何が残ったのか。そのことを未来に残す戦争の記録をたどり「戦争とは何か。何が残ったのか」を考え合いたい」と思い編集をした。

全文の紹介は新年1月号まで続くが、ぜひ手元に置き、読み続けて頂きたいと思う」
(事務局)

◆1931年9月

満州事変

◆1937年7月

北京(北平)郊外で盧溝橋事件、日中戦争始まる

◆1937年12月

日本軍、南京を占領

◆1938年12月

日本軍による国民政府の臨時首都・重慶への空襲開始

◆1939年5月

ノモンハン事件・日本軍ソビエト軍と衝突

◆1939年9月

ドイツ軍がポーランドに侵攻、第二次世界大戦始まる

◆1940年9月

日独伊三国同盟締結

◆1940年9月

総力戦研究所開設

◆1941年4月

日米交渉始まる

◆1941年10月

東條英機内閣成立

◆1941年12月

太平洋戦争始まる

日本軍が英領マレー半島と

米ハワイ・真珠湾を奇襲攻撃

◆1942年1月

日本軍、マニラ占領

◆1942年2月

日本軍、シンガポール占領

華僑虐殺事件おこる

◆1942年2月～1943年11月

日本軍によるオーストラリア北部への空襲始まる

◆1942年8月

ガダルカナル島に米軍上陸

◆1943年2月

日本軍ガダルカナル島から撤退

◆1943年9月

イタリヤ、無条件降伏

◆1943年9月

今後執るべき戦争指導の大綱(絶対国防圏を設定)決定

◆1943年10月

学徒出陣

学生の徴兵猶予停止

◆1944年6月

北九州空襲

大型爆撃機B-29による日本本土初空爆

◆1944年7月

サイパン陥落

日本本土のほとんどがB-29の攻撃範囲に入る

◆1944年7月22日

東条内閣総辞職

◆1944年8月

学童集団疎開始まる 全国で46万人

◆1944年8月

学徒勤労令 女子挺身勤労令

男子中学生や女学生が軍需工場に動員

◆1944年8月22日

沖繩学童疎開船(対馬丸)米潜水艦による

撃沈 学童他1400名余死亡

◆1944年10月10日

米・機動部隊による南西諸島一帯の空襲。

沖繩・那覇が焼け野原になった。

◆1944年10月

レイテ沖海戦

海軍神風攻撃隊初出撃

【ちよつとひと言】

気づいたこと・感じたこと



高齢社会における介護・医療問題

在宅介護・消滅の恐れ

病気や要介護状態にならないのが一番良いことですが、なかなか思い通りにはいきません。人は必ず年を取りますし、年齢を重ねて体が弱くなれば病気にかかったり、介護が必要になったりするリスクが高くなるのは必然です。

厚生労働省の「生涯医療費」(令和3年度)によれば、国民1人あたりの生涯医療費は2815万円であり、それを年代別に見ると50代からぐっと増え始め、70代が最も高くなっています。

実際は公的医療保険などによる自己負担額がありますのでここで示した数値の1/3割となりますが、健康を害したときを考えればある程度の備えがないと「老後破産」を招くリスクが高まることは想像に難くないでしょう。

また自宅を「終の棲家」と、したいと願いつつも介護施設には80代の半数が入所すると言われています。それでは介護施設に入所するには費用がいくらかかるのでしょうか。老人ホームには入居形態が様々ありますが、概算でかかる費用としては介護施設の中でも特に安く入所できるといわれるが特別養護老人ホーム(特養)です。その場合でもその利用料金は入所者本人の要介護度と所得によって決まりますが、ユニット型個室の利用で要介護3の場合にはね月額18万円程度の費用がかかります。

「注」要介護3とは、食事、排せつ、入浴といった基本的な日常生活の行為が自力で行えないことが多い状態を指す。

一般的な会社員で定年まで勤め上げ、平均的な額の厚生年金の手取り受給額は14万円余です(単身)。よって年金以外に年間約50万円程度の負担が必要となります。また在宅介護であっても、その初期費用は100万円〜200万円、月額費用としては3万円〜6万円ほどかかると言われています。現役を引退した高齢者の方にとっては、現在の所得といえは年金が主たるものになるわけですから、よって余計に現実を「直視しすぎて落胆する」事態に陥りかねません。

【参考】初期費用の内訳

- バリアフリーリフォームなどの住宅改修費など
- お風呂用の安全なイス、簡易トイレなどの介護用品購入
- 月額費用の内訳

- 介護保険サービス(訪問介護・通所介護など)
- 通院費：おむつ購入代など。

【プラス】

- レトルトの介護食費

病気の有無、要介護度などによる在宅介護だけでなくこれだけのお金がかかるのです。「終の棲家」である自宅での生活であれ、「施設入所」であれ、どちらにしても医療、介護にかかわる費用は膨大なものとなることを押さえておかなければなりません。

民間経営の介護施設を考える

これまでは「公的な介護施設」について触れてきましたが、民間の介護施設には「介護付き有料老人ホーム・住宅型有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅・グループホーム」などがあり次々と開設されています。しかし介護業界の現状は、人材不足・設備不足・利益率の低さ・介護報酬の改定・競合の増加などの不安要素が多く、

東京商工リサーチによると、今年上半年(1〜6月)の介護事業者の倒産は81件となり新型「口ナウシルス禍の令和2年の58件を抜き過去最多となつています。とりわけ在宅介護の中軸である訪問介護は、70代のヘルパーが中軸になっており、要員の確保が難しく、激減そして消滅の危機にあると言われています。

また「厚生労働省は高齢化による介護サービスの需要増加を受け、介護職員が2026年度に全国で25万人不足をする。また高齢者がピークとなる2040年度は約57万人が不足をする見通し」と報じています。(7月14日・毎日新聞・社民党郡山総支部定期大会議案書より)

そのような中で1976年には病院死が48.3%になり、在宅死(46.3%)を初めて上回り、現在は7割の人が病院で最期を迎えています。まさに少子高齢化のなかで親の介護が必要になった場合どうするのかを巡る問題が顕在化しています。

岸田首相は「令和版所得倍増」を掲げました。そして所得倍増のため、企業に従業員の賃上げを促し、あるいは「医療・介護・保育などの現場で働く人たちの所得増のため委員会を設置」といった策を検討するなど、国民の関心を引きつけながらも今は少額投資非課税制度(NISA)による有利な投資環境が整う「資産所得倍増」という資産形成に力がそそがれています。あたかも老後生活の不安を国民の資産形成という「人的努力」に置き換えようとしています。まさに医療、介護、保育問題は政治の問題と言わなければなりません。



長崎平和式典

長崎出身の被爆者詩人を想う

76年前、米軍による原爆投下で、火だるまとなり焼かれ、倒れた建物に挟まれ生きたままなくなった人。そして皮膚はたれ、水を求め息絶えた多くの市民を思い、「弔いの追悼」の平和式典が広島、そして長崎で今年も開催をされました。長崎の詩人・福田須磨子さんの詩があります。

原爆を作る人々よ！

しばし手を休め 眼をどじ給(たま)え

昭和二十年八月九日！

あなた方が作った 原爆で

幾万の尊い生命が奪われ

家 財産が一瞬にして無に帰し

平和な家庭が破壊しつくされたのだ

残された者は

無から起(た)ち上がらねばならぬ

血みどろな生活への苦しい道と

明日をも知れぬ「原子病」の不安と

そして肉親を失った無限の悲しみが

いついつまでも尾をひいて行く

原爆を作る人々よ！原爆を作る人々よ！

今こそ ためらうことなく

手の中にある一切を放棄するのだ

そこに初めて 真の平和が生まれ

人間は人間としてよみがえることが出来る

のだ



「加害の責任」を考える

日常生活に基づいた確かな「美」を追求する一方で、人間の命を踏みにするものの「無礼」を社会に問い続けた随筆家・岡部伊都子がいま。

京都での暮らしや四季の移ろいを綴る一方で、沖縄問題、炭鉱労働者、ハンセン病など差別問題に目を向けてきました。しかし「この戦争は間違っている」と言った婚約者の意味がわからないまま、岡部は日の丸を振って沖縄へ送り出しました。そのことをもって自らを「加害の女」と呼び

「女は被害者ではない。送り出した自分も戦争に加担した」とその責任を語り続けました。婚約者の戦死地であった沖縄に幾度となく足を運び、沖縄の姿を通して、戦争を、日本のあり方・人のあり方を終生問いかけ続けました。7年ぶりに訪沖「人殺しはするな、戦争を無くせと、摩滅の骨が叫びこちらの行く方を心配してくれていると実感する」。(沖縄の骨)より。

岡部伊都子さん(2008年4月29日没)

隊列に駆け寄り泣きながら手を振った

1943年(昭和18年)、明治神宮外苑で行われた学徒出陣壮行会に参加していた女学生の中に、当時女学生であった作家の杉本苑子さんがいた。終生忘れることの出来ない体験をし、後に次のように述べています。

「今でも目に焼き付いているのは、壮行会を終えた学徒たちが宮城に向けて行進を開始し出した時です。私もは隊列を乱し思わず駆け寄ってしまいました。そして泣きながら手を振ったのです。同情とか可哀想だとかという感じではなくて、何か私たちも遠からず死ぬのだと。「やがて死ぬ者が先に、死ぬ人たちを送るのだ」という切実な、そういった気持ちでした」と。

「この当時のことについて、杉本さんは後に次のように述べて、「この巨大な消耗、巨大な損失、巨大な犠牲を払いながら何を得たのか」。「家を焼かれ、肉親を原爆の一瞬で地獄に突き落とされて殺される。そういった大きな犠牲を払うということ、これを足場にして再出発するということを私などはやはり「歴史小説を書くんだ」という根底になりました」。

杉本苑子さん(2017年91歳没)

玉砕の報に、私たちは学校の奉安殿へ

かく言う私もあの時代を「軍国少年」として生きてきました。日の丸を振って隣組の父や兄を戦地に送り出しました。そして米軍艦隊の本土決戦にあたっては、神風が艦隊をなぎ倒し、そこに日本の無敵艦隊が出動すると信じていました。国民すべてが、玉砕の覚悟で臨むとした「本土総玉砕」に組した一人であったこと。その加担の責任を語り続けたいと思います。(降矢記)

報告・提言のひろば

■台風が日本列島を縦断しそうです。どのように気を付け、そして対策をとれば良いのでしょうか。マスコミを使って脅し、後は自己責任というものを感ずります。そして今の政治も後からポーズをとるだけです。

■7月18〜31日に、郡山市文化センターで市政施行100周年記念事業の一環として「ヒロシマ原爆・平和展」が開かれていたので写真や、当時の衣服などの展示品を見学して来ました。何せ私は、昭和20年8月6日の広島に原爆が投下さ

れた日に生まれてものですから……また8月14日には、「平和のための郡山の戦争展」(郡山市公会堂)の討論集会にも参加して来ました。参加者全員で「憲法第9条」をあらためて確かめあいました。どちらも一人での参加でした。遠い過去の出来事ではありませんが、期を捉えて振り返る事を心掛けているつもりです。

■自民党の後継総裁選挙の話題が毎日マスコミで報道されており、後継者選びだけの報道に疑問を感じます。また同時期に行われようとしている立憲民主党の代表選挙も同様。政権交代の絶好の機会だと思っておりますが、自民党に代わる政権とはどういうものなのか、具体的にその在り方を示すような代表選挙にすべきではと思えます。また来年の参議院選挙、衆議院選挙について社民党も、国民にその重要性和社民党としての取り組み方を示すべきと思えます。私たちはとにかく社民党の姿を少しでも見えるように、最低限の取組ではありませんが週一回街頭で「社民党」のぼり旗を立てて街頭宣伝に取り組んでいます。暑い中なので1時間半程度の行動ですが今後も続けていこうと思っております。

■台風の影響で「コメが心配です」「コメ不足」に拍車がかからぬ事を願います。自民の総裁選、野党の代表選と政局も熱を帯びてきました。自民党の河野予定候補者も脱派閥は、裏金」を返却しケジメをつけるべきと言いますが国庫が受け取れるのですか。受け取るにしても何かおかしな受け取りをしたら?。頭数は揃ってますが、国民に寄り添える方は誰なのか、首をかしげるのは小生だけでしうか。野党も内輪もめせず一致団結し、与党に立ち向かって頂きたいですね。頑張れ「野党」!

■自民党への不信が強まると、総裁選で看板を付け替えた上で選挙に打って出るという自民党のいつものやり口はTVのワイドショーまがいです。自民党の「メディアジャック」状態になっています。

■総選挙は最短で自民党総裁選後の10月末が予想されていますが、神奈川県連合では街宣車と街頭宣伝を組み合わせた比例区街頭宣伝行動を4月〜6月に実施、第2弾として8月〜9月にも県内各地で宣伝行動を展開しています。8月24日(土)は川崎地区の担当で川崎駅と武蔵溝ノ口駅での街頭街宣を行いました。またその駅間をつないで、社民党の政策メッセージをテープで流しながら街宣車で走りました。

■先日東京都連合が主催したサポーター集会に何と65名の皆さんが集まりました。よくこれだけの人数が集まったものだと思います。これを継続していけば、大きな可能性が出て来るのではないかと思います。

■党の現状を考えると不安で甚だ心細い限りです。まずは退職する仲間との接触がなければ運動の先細りを危惧します。しかし、現実には働きかけることが大変困難です。労働組合との交流もほとんど無く、労働者との関わりもありません。これは、前から言われてきたことですが、私たち自身が地域で労働者との関わりを持ってこなかったことの表れだと思えます。では、どうするかです。先ず本気で議論をし、一人でも二人でも具体的ななかかわりを作ることだと思います。

■福島みずほさん窓口で市民グループが環境省と行なった「放射能汚染土(除去土壌)を再生利用させないでください」という行政交渉を聞いてきました。環境省は特措法に基づく「処理」の範囲で除染土の「再利用」を進めようとしています。福島、所沢や新宿御苑はじめ実証事業と称し全

国で除染土を高速道路や農地の下に埋め再利用しようとしています。各地で反対の声に押されて進んでいません。環境省は法的にグレーな部分を新たな省令で乗り切ろうとしています。今回の台風10号で新宿御苑の実験場所は水没しました。高速道路や農地も温暖化の豪雨で崩れることもあるでしょう。拡散の可能性は否定できません。この交渉で感じたことは、原発事故後、政府が約束した「除染土は30年で県外で最終処分する」のために解がない状況に陥っているように思えました。約束をしたものの、最終処分を受け入れるという他県自治体などあるはずもなく、再利用と称して拡散し見えなくして(隠して)しまおうという構図にしか見えませんでした。拡散した放射性物質が建設資材として再利用され健康被害まで生じてしまった台湾原発の教訓もあります。放射性物質は集めて管理し拡散させないが原則のはずです。福島の間貯蔵施設の地権者のみなさんは、子、孫世代に土地を残したいと思いつつも福島の復興のため土地を提供しているのだと思えます。地権者に対する十分な補償と謝罪を含め「約束」を見直す政治決断でもない限り出口がないように感じた交渉でした。



とき10月19日(土)
午後1時より
ところ
ミューカルがくと館
(郡山市開成)

神田香織 講談

入場料一般2000円

今般お二人から計4000円のカンパを頂きました。ありがとうございます。(事務局)